

## 平成27年度第4回北杜市図書館協議会会議録

- (1) 会議名：平成27年度第4回北杜市図書館協議会
- (2) 開催日時：平成28年3月17日（木）午後1時30分～午後3時20分
- (3) 開催場所：北杜市金田一春彦記念図書館 SVホール
- (4) 出席者： 協議委員 柴山 裕子／小澤 一／手塚 正子／竹田 和美  
須田由美子／中山 洋美／金子 朋子／齊木 久壽  
事務局 三井図書館長／長谷川 誠・小野 まどか・  
相吉 悠（総務担当）／大平 真衣（たかね図書館）／  
進藤 由美子（小淵沢図書館）  
学校図書館司書 浅川希久子（須玉中学校）
- (5) 議題：
  - (1) 平成28年度図書館主要事業（案）について
  - (2) 金田一春彦記念図書館内いずみふれあい児童館の書架移設について
  - (3) その他

報告：
  - (1) 図書館利用者懇談会について
  - (2) 各図書館の近況報告について
  - (3) その他
- (6) 公開・非公開の別：公開
- (7) 該当なし
- (8) 傍聴人の数：0人
- (9) 審議内容

### 議 題

#### 1) 平成28年度新規事業について

\*事務局より28年度主要事業（案）について、課別予算説明資料に基づき説明

- ・「図書館管理運営事業費」「図書館運営事業費」「図書館ボランティア研修事業費」「ブックスタート事業費」「金田一春彦・平山輝男アーカイブ資料デジタル化事業費」の5つの事業を予定している。
- ・新規事業では、子育て支援の一環として2歳児を図書館の読み聞かせに招待し、絵本をプレゼントする「本の杜への招待状事業」に282千円を計上している。
- ・昨年富士見町、原村と締結した「八ヶ岳定住自立圏」の関係では、「図書館相互利用促進事業」30千円を計上している。これは、県外図書館からの相互貸借の場合、利用者に送料を負担してもらっているが、富士見町図書館、原村図書

館との間の相互貸借においては、送料を図書館側で負担することとしており、相互貸借時の送料である。

- ・ブックスタート事業費175千円は、7ヶ月検診時に行っているブックスタートにおいて配布している絵本の購入費である。
- ・アーカイブデジタル化事業費7,850千円については、27年度から3カ年での事業であるが、28年度については資料のデジタル化作業委託とインターネットでの公開システム構築、夏に予定しているプレ公開の講演会に関わる予算である。
- ・「本の杜への招待状事業」については、新規事業として立ち上げる中で、しっかりと数値目標を定めて取り組み、この事業に効果があるのか検証しながらすすめていくこととなっている。
- ・そこで平成21年度0～6歳の図書館利用者数に対し、平成26年度利用者が45.2%になっているところを、平成30年度には50%まで引き上げていきたい。
- ・どうしたら0～6歳の利用者を増やしていくことができるか意見をいただきたい。

委員：利用者数というのは、貸出しをした人の数か。

事務局：カードを使って貸出しをした貸出者数である。親子で来て、親のカードで借りていけば、0～6歳児の利用者数には反映されないという課題もある。

委員：おはなし会に参加した子どもも利用者として反映できればいいのではないか。小さいころから保育園に行く子どもが増えている。保育園から見学などを受け入れているのか。

委員：保育園の団体貸出を利用している保育園はどれくらいあるか。

事務局：民間も含めて15施設のうち、団体貸出を利用しているのは5施設である。団体貸出の制度の周知が進んでいないのと、どうしても紛失や破損になった場合の責任の問題があり、利用が進んでいないものと思われる。

委員：保育園の団体貸出を推進して、子どもたちに本に親しんでもらって図書館の利用につなげていくことが大事ではないか。

保育園での読み聞かせは、全部の保育園で行っているのか。

事務局：要請がある保育園で行っているので、全部の保育園で行っているわけではない。

委員：積極的に保育園に出て行って、本は楽しいものであるというのを伝えていってもらえると図書館利用が進んでいくのではないか。

事務局：できる限り保育園にも出て行くようにする。

委員：保育園でも予算が少なくなっており、保育園においてある本や紙芝居はかなり古い本が多く、子どもたちも読んで何度も読んでいて飽きてしまっていることが多い。そのときに図書館から新しい本を持っていくととても喜んでくれるので団体貸出を推進していただきたい。

子どもたちの中には図書館に行ったことがない子が多い。お母さんに話を聞くと、図書館に行って本を借りたいけど、図書館は静かにしなくてはいけないところだから、子どもを連れて行けないという声を聞く。図書館職員が読み聞かせに来てくれることもありがたいが、保育園で図書館探検のような時間をつくってもらい、実際に子どもたちが図書館に来る機会を作ってあげることが大事ではないか。そうすれば子どもたちが自分から親に言って図書館に来てくれるようになると思う。

委員：保育園に出かけていくことも、図書館に来てもらうこともそれぞれ効果はあると思う。あとは各館やそれぞれの保育園の実情もあると思うので、相談をして進めてもらいたい。

明野保育園では子育て支援課から読み聞かせをやってみたらどうかという話があったと聞いた。是非子育て支援課からも図書館との連携を深めていくように各保育園に話しをしてもらえるように要請をしてもらいたい。

委員：子どもを連れてきづらいという声もあるので、節度はあるけれども少しくらい子どもが声も出しても大丈夫だということを周知してもらいたい。一般の利用者にも、許容範囲を広げてもらうとともに、静かに本を読みたいときにはそういう設備のある図書館に行ってもらうような住み分けについても考えてもらいたい。

事務局：貴重な意見をいただいたので、子どもの利用促進に活かしてまいりたい。

委員：図書館運営事業費のなかに明野寄付金活用事業270千円が計上されているが、昨今マイナス金利になってしまったが、この予算は確保されるのか？

事務局：予算作成の段階ではマイナス金利ではなかったのですが、27年度と同じ金額を予算化している。28年度については予算化したのでこの金額は確保されているということである。ただし今後については、原資が少なくなることも考えられるし、金利によっては28年度までと同じ金額を予算化できるかどうかは定かではない。

委員：27年度はこの事業で明野図書館で本を購入したが28年度以降はどの図書館で使っていくのか。

事務局：各館をまわして活用していくことにはなっているが、どの順番で館を回していくかは決まっていない。建制順で回していくのが順当とは考えている。

委員：図書の購入費が、図書の数の多いところには多く、数が少ないところには

金額の配分も少ない。できればこの寄付金活用事業については図書費の少ないところに配分してもらいたい。

事務局：図書館内で検討をしたい。

委員：富士見・原村との図書館相互利用促進事業は何件の利用を見込んでいるのか。

事務局：20件を見込んでいる。昨年9月からこの事業がスタートし、現在までの利用実績は3件である。基本的に市内に所蔵がなければ県内のほかの図書館から相互で借りることで対応しており、ほとんどの場合県内図書館で借りることができる。図書館相互利用促進事業を利用するのは、市内でも県内の図書館でも所蔵がなくて、富士見町・原村の図書館には所蔵がある場合に限られるので、それほど利用が多いわけではない。富士見・原村の郷土資料などが主な対象になると考えている。

## 2) 金田一春彦記念図書館内いずみふれあい児童館の書架移設について

### \*事務局より書架移設についての説明

- ・これまで金田一春彦記念図書館では、併設しているいずみふれあい児童館内を子ども図書館としても利用してきたが、児童館の利用者も増え児童館の安全の確保のため、子ども図書館内の書架を一般用書架に移動し、6月21日から児童館と図書館を施設内で分けて運営していくこととした。
- ・これに伴い児童館と子ども図書室が併設したが、児童館だけのスペースになるので、職員体制も児童館職員2名だけになる。開館日もこれまでは毎日開館はしていたが、月～金だけの開館となる。ただし土日イベントがある場合は図書館管理のもとに開館する。開館時間もこれまでは図書館と同じく19時まで開館していたが、18時までとなる。図書の扱いは、図書館として管理・貸し出し等行う資料は全て一般用書架に移動し、児童館に残す資料については除籍し、その後は児童館で管理する。運営について以上のような変更を行う。
- ・今後のスケジュールについては、28年度は5月30日～6月20日を特別整理期間とし、このときに書架の移動、本の移設と蔵書点検を行い、6月21日よりリニューアルオープンとする。特別整理期間だけでは全ての作業を終えることが困難なので、5月10日～5月29日までは子ども図書室内の本の貸出しを停止し、子ども図書室の開館時間を18時までとし作業を進めていきたいと考えている。

委員：金田一図書館の魅力は子ども図書室が分かれて存在することにあつたと思うので少し残念である。

委員：開館当初は、一般用書架のスペースに子ども用スペースがあったので、開館当初のかたちに戻るのかなというイメージ。そのときも子どものスペースがあって全体がすごくうるさいという感じでもなかった。

委員：一般の方にも6月21日からは子ども図書館が移設されるということをよく周知して、苦情等がなるべく出ないようにしてもらいたい。

事務局：周知を徹底する。

委員：5月9日からは子ども図書室の本の貸し出しができなくなるということだが、やまねっとでの取り寄せや予約をかけても借りられないのか。

事務局：この間、本を貸し出してしまおうとどうしても管理上難しい部分があり、予約等含めてすべて貸し出しはこの間中止ということでご理解いただきたい。

## 報告

### 1) 図書館利用者懇談会について

\*平成28年3月12日(土)すたま森の図書館で利用者懇談会を開催した。1部で大月市立図書館館長の仁科幸子さんに講演をしていただき、引き続き2部として利用者懇談会を開催。主だった声について報告。

- ・図書購入費をこれ以上削減しないようにしてもらいたい。臨時職員の待遇の改善をしてもらいたい。
- ・雑誌のスポンサー制度なども含めて、財政的に厳しいようであれば、収入を得るような方策を考えていってもらいたい。
- ・たかね図書館のロビーにテーブルをおいてもらいたい。
- ・北杜市図書館も外部から館長を招いてもいいのではないか。
- ・朗読の集中講座を行ってもらいたい。
- ・開館時間の変更に伴う影響について
- ・新聞について少なくとも1館は3大紙をそろえてもらいたい。
- ・明野図書館に閲覧スペースを確保してもらいたい。
- ・行政資料についてはしっかり図書館で収集して閲覧できるようにしてもらいたい。
- ・図書館に来たくてもこれない人が増えていくので宅配サービスを充実してもらいたい

などの声が寄せられた。すぐに改善できる部分是对応することとし、検討すべき課題については今後検討をしていきたい。

委員：各館の新聞の購入についてはどのように決めているのか。

事務局：ある程度予算が確定したところで、各館で話し合っただけで雑誌・新聞をまと

めた予算配分の中で各館どうしても調整をしながら、どの雑誌・新聞を購入していくのか決定している。

委員：明野図書館の閲覧スペースについては、現状の施設の中での対応は難しい状況である。支所への移転など抜本的な方策を検討してもらいたいというのが多くの明野住民の声である。

## 2) 各図書館の近況報告について

\*各図書館で行った事業、今後予定している事業について資料をもとに説明

委員：小淵沢図書館での「パパ読んで」での読み手のお父さんは何人いたのか。今後も定着していくのか。

事務局：今回は6名のお父さんに読んでもらった。お父さんの読み聞かせグループを立ち上げられればと思っているが、皆さんに仕事もあり忙しくなかなかグループの立ち上げには至っていない。それでも機会があれば読み手として参加してくれるといってくれているので何回か会を重ねるなかでグループも立ち上げていきたい。

以上